

猿新聞



第一回講習会

MD育成訓練士 養成講習始まる

今年度においては、国の事業からMD育成訓練プログラムが事業対象外となり、公認大訓練士に依頼しての育成ができなくなっています。これに伴い、宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会（以下協議会と表記）では、MDMDC会員からMD育成の訓練技術講習会参加を募り、MD訓練士養成にとり組んでいます。

講習会は、三重「碇」警察犬訓練所において毎週1回／2時間、3月末まで行う予定になっています。

年々訓練への参加頭数の減少。それに加え、訓練士に依頼しての育成事業の打ち切りで、MDの全領域への適正配置は、困難な状況です。それを受け、協議会では、MD養成のための人材は、MD養成のための人材

育成にとり組んでいます。訓練士には、基本的な訓練の他に、犬の健康新理や総合的な知識と技術が必要で、JKC（ジャパン・ケンネル俱楽部）の公認訓練士に弟子入りするなどして、5年～6年にわたり、その技術を学ぶ世界です。僅か半年（48時間）の講習で、技術を習得できるという甘いものではないと思います。



訓練場風景

だが、ここは、講師と講習に参加されている皆さん、熱意と努力に期待するほかありません。地域が、MDの存続・拡充を望んでいることを糧に、一日も早く訓練技術を習得されることを望んでやみません。このプロジェクトには大きなリスクが複層的に絡んでいるように思いました。行政との議論を慎重

矢川のアライグマ（続き）

（戦略企画部 企画課）

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

仕組みづくりを進めるこ

とで集落周辺への野生鳥

獣の出現の減少を図ります。

アライグマの被害が10月になっ

ても収まりません。山田出付

近では、自

家用サツマ

イモに大き

な被害が出

ています。被害が一

度発生する

と常習化し、

被害箇所を

中心に新た

な被害地拡

大のおそれがあるため、

捕獲では、錯誤捕獲に

十分な注意を這わなければなりません。錯誤捕獲

防止のため、誘導餌には

ネコなどが好む食品の使

用は避けて下さい。

アライグマによる農作

物害も、収穫時期が近づ

くと短期間に集中して被

害が出ます。早期収穫か、

早い日に対策を行うこと

で、効果的に防ぐこと

ができます。

アライグマの場合は、

飛び上がっても手

が届かないよう、柵の高

さは5m以上になります。

網を使つた場合、アライ

グマは柵を登ることがで

きるので、上面（天井）

にも網を張ります。網の

保された獣肉等の流通の

支援します。

また、安全性や品質が確

保されています。

さるの群れに出会

ました。地域での問題

になりました。

アライグマが潜り込みます。

トタンであれば、接

地面を20～30センチ程度埋め

ると下からの潜り込みを

防げます。

トリアは柵の下

に穴を掘つて侵入

することもあるので、柵

の接地面に波板等を30セン

チ程度埋め

ります。

アライグマが潜

り込まないよう、重いも

のでしっかりと押さえま

ります。

アライグマが潜